

## 論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3098 号	氏 名	藤政 浩一朗
論文審査担当者	主査 吉田 仁 教授 副査 本田 一穂 教授 副査 根本 哲生 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>食道原発神経内分泌癌 (NEC) は高悪性度な腫瘍だが、稀少癌であり文献的報告はほとんど見られない。藤政らは、食道 NEC 発癌の機序について p16-RB 経路に注目して免疫組織学的に検討した。当院で 2004 年から 2018 年に食道 NEC と組織診断された 12 例 (外科的切除 9 例, 生検 3 例) を対象に、同時期に切除された扁平上皮癌 28 例および癌肉腫 12 例を比較対象とした。免疫染色では、RB 欠失は NEC で 10/12 例で、一方 p 16 過剰発現も NEC で 10/12 例 (すべて RB 欠失例) と高頻度にみられ、どちらも扁平上皮癌、癌肉腫に対し有意に高かった (<math>p &lt; 0.05</math>)。p16-RB 経路の変異を示した NEC10 例は、すべて small cell type であった。NEC の 12 例中 7 例で観察された先行病変 (上皮内扁平上皮癌) では、RB 欠失は 1/7 例に、p16 過剰発現は 2/7 例にみられた。食道 NEC では p16-RB 経路の変異が高頻度でみられ、扁平上皮癌、癌肉腫等の組織型とは異なる発癌の機序が示唆された。</p> <p>上記の結果から、本研究は稀少癌である食道原発 NEC の発癌機序の一部を明らかにした <b>originality</b> に富む研究であり、高い学術的価値を有し、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名 : Frequent and Specific Involvement of Changes of the p16-RB Pathway in Esophageal Neuroendocrine Carcinoma</p> <p>(食道神経内分泌癌における p16-RB 経路の変異の検討)</p> <p>掲載雑誌名 : Anticancer Research Volume 39, issue 4, 2019 (April)</p>			

(主査が記載、500 字以内)